

2025 年度

授業科目名		コミュニケーションサポートⅢ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		北條 彰子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		学内外の各種行事に参加することを通して、集団行動と集団内のコミュニケーション能力を身につける。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業内容・授業計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～8	始業式、終業式								① 集団行動のルール、マナーが理解できる ② 集団行動のマナーが実践できる ③ 他人の発表を理解し、意見が言える ④ 本科及び異国籍の学生と交流できる ⑤ グループ活動に積極的に取り組む ⑥ 各行事についての振り返りができる							
	9～12	マナーコンテスト															
	13～14	Language Day															
	15～22	校外研修（事前・事後学習含む）															
	23～24	ニューイヤーセミナー															
	25	防災訓練															
	26～27	就職活動ガイダンス（卒業生体験談発表）															
	28～30	クラス活動															
成績評価方法		出席率															
使用テキスト／教材		なし															
関連科目		コミュニケーションサポートⅠ、コミュニケーションサポートⅡ															
その他																	

シラバス（授業概要） 2025 年度

シラバス（授業概要） 2025 年度

授業科目名		パソコン演習Ⅱ														
学科・コース		国際交流科														
担当教員		松川 麻美														
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位				
実習				3		通年		必修		60		2				
授業目的 到達目標		Excel演習では、2年次に学習した内容に応用した関数や集計方法を習得し、上位資格取得を目指します。 PowerPoint演習では様々な資料作成方法を学び、課題制作に取り組みながら効果的なプレゼンテーション技能を習得します。また、ワープロ技能の応用として、文書デザイン検定も目指します。														
授業手法		・対面		○		・遠隔		○		・対面/遠隔		○		・オンデマンド		
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～4		情報モラル・就活用フォーマット編集・メールの基本								① 情報モラル・セキュリティが理解できる ② 就活における文書作成方法が分かる ③ 就活におけるメールの基本が分かる ④ Excelで視覚資料の作成方法が分かる ⑤ データを多角的に編集できる ⑥ 上位の表計算検定試験を受験できる ⑦ PowerPointの概要と基本操作ができる ⑧ 多種の素材を生かしたプレゼンを作成できる ⑨ 有効的なプレゼン資料の作成ができる ⑩ Wordでチラシ作成ができる ⑪ 文書デザイン検定を受験できる					
	5～6		Excel演習 グラフ・オブジェクトの利用													
	7～10		Excel演習 高度な関数の利用													
	11～14		Excel演習 データベース													
	15～18		Excel演習 統計、3-D集計													
	19～28		表計算検定模擬練習													
	29～30		表計算検定試験													
	31～34		PowerPoint演習 基本操作 スライド作成と編集													
	35～36		PowerPoint演習 素材の利用													
	37～40		PowerPoint演習 メディアの利用とアニメーション効果													
	41～48		PowerPoint演習 課題資料作成 課題発表													
	49～58		文書デザイン検定模擬練習													
	59～60		文書デザイン検定試験													
成績評価方法		【前】表計算検定（60％）、課題（20％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％） 【後】課題発表（40％）、文書デザイン検定（40％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％）														
使用テキスト／教材		留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint 入門（技術評論社） 情報処理検定試験 表計算 問題集・文書デザイン検定 問題集														
関連科目		パソコン演習Ⅰ														
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。														

2025 年度

授業科目名		キャリアサポートⅢ												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		山崎 弘												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
演習		・講義		3		通年		必修		60		2		
授業目的 到達目標		職業教育を受けた学生が個々の価値観を実現するキャリア形成をスタートするため、労働の意義と職業観を確立し、日本国内における就労許可を得るための準備及び行動を開始する												
授業手法		・対面		・遠隔		・対面/遠隔		○		・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～4		日本企業とは、企業と労働者、企業の求める人材の理解						10項目程度					
	5～8		就職活動に必要なとなる文書準備と行動						① 就職活動のプロセスを理解する					
	9～12		説得的就職活動とは、職業観の確立						② 職種選択の基準を設定できる					
	13～16		具体的なエントリー及び提出文書作成①						③ 企業選択の基準を設定できる					
	17～20		具体的なエントリー及び提出文書作成②						④ 就活報告と相談ができる					
	21～24		具体的なエントリー及び提出文書作成③						⑤ 履歴書の制度が高い					
	25～28		内定後の企業とのコミュニケーション						⑥ エントリーシートの政策ができる					
	29～32		仕事をする上での教養		言語的教養				⑦ 面接基本設問に対する返答ができる					
	33～36		仕事をする上での教養		非言語的教養①				⑧ 企業の社会的責任を理解する					
	37～40		仕事をする上での教養		非言語的教養②				⑨ 企業経営のストラテジを理解する					
	41～44		日本企業のストラテジ		社会的責任				⑩ 就労者の労務管理を理解する					
	45～48		日本企業のストラテジ		企業経営				⑪ 新入社員の不安項目を理解する					
	49～52		日本企業のストラテジ		労務管理				⑫ 入社後のキャリア開発を設計する					
53～56		入社の準備												
57～60		日本での自己のキャリア設計												
成績評価方法		【前】・前期課題（30%）、前期の学習姿勢（30%）、出席率（40%） 【後】・後期課題（30%）、後期就活達成度（30%）、出席率（40%）												
使用テキスト ／教材		キャリアデザインノート （オリジナルテキスト）				就活資料 （授業時配布）				PPTシート （授業時配布）				
関連科目		キャリアサポートⅠ、キャリアサポートⅡ												
その他														

2025 年度

授業科目名		サービスマネジメントⅡ																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		草場 美奈子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・ 演習		3		通年		必修		60		4						
授業目的 到達目標		就職活動にも活かせるマナーの習得、日本社会で必要とされるマナー、立ち居振る舞いを身につけ、社会常識についても学びます。																
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		オリエンテーション・身嗜み・名乗り								① ビジネスにふさわしい身嗜み ② 自分の意見を日本語で発言できる ③ 正しい書類の書き方がわかる ④ ビジネスメールのルールがわかる ⑤ 好印象を与える立居振舞ができる ⑥ ビジネスでの電話の受け答えができる ⑦ 社会人としてのマナーが身につく							
	5～10		面接対応（集団面接・個人面接）															
	11～16		面接対応（グループディスカッション）															
	17～22		書類作成（封筒の書き方・添え状）															
	23～38		ビジネスメールの送り方															
	39～44		お礼状の書き方															
	45～50		電話対応															
	51～60		入社に備えたビジネスマナー															
成績評価方法		出欠席20%、平常点（マナー・提出物など）50%、小テスト30%																
使用テキスト／教材		プリント、便箋、封筒、																
関連科目		サービスマネジメントⅠ																
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である																

2025 年度

授業科目名		TOEICⅡ													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		クックアンソニー													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義		3		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標		This course is an introductory course for the TOEIC® Listening & Reading Test. Students will learn all sections of the test with a target score of 730 points or more.													
授業手法		・対面		○	・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ	○
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～4	Part 1: Photographs (Scenes)								10項目程度					
	5～8	Part 1: Photographs (People)								① Time Management					
	9～12	Part 5: Part of Speech / Conjunctions								② Question Awareness					
	13～16	Part 5: Prepositions / Verb Choice								③ Skim & Scan Reading					
	17～20	Part 6: Sentence Position Questions								④ Listening for inference					
	21～24	Part 3: General Meaning Questions								⑤ Using Synonyms					
	25～28	Part 4: General Meaning Questions								⑥ Grammar Control					
	29～32	Part 3: Specific Detail Questions								⑦					
	33～36	Part 4: Specific Detail Questions								⑧					
	37～40	Part 7: General Meaning Questions								⑨					
	41～44	Part 7: Specific Detail Questions								⑩					
	45～48	Part 7: Multiple Passage													
	49～52	Part 6: Review													
	53～56	Listening Review													
57～60	Reading Review														
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Actual Test Results 75%													
使用テキスト ／教材		Class materials will be distributed at the start of each class.													
関連科目		TOEICⅠ													
その他		This class is conducted in English. You may require your PC sometimes.													

2025 年度

授業科目名		ビジネス言語演習Ⅲ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		北條 彰子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		通年		必修		300		10					
授業目的 到達目標		言語運用能力の向上を目指し、仕事の場面で円滑に業務ができる日本語力をつける。 日本語能力試験N1の取得を目指す。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～50	話題別に言葉を学ぶ								① 語彙力が付く ② 文法意味を理解し、文法を活用できる ③ 読解文を読む力が付く ④ 読解文の問いを解く技術が身に付く ⑤ 構成を考え、わかりやすく話すことができる ⑥ 自分の意見がしっかり言える ⑦ 新聞が読める							
	51～88	性質別に言葉を学ぶ															
	89～176	文法を意味機能別に学ぶ															
	177～212	読解：指示語、キーワード、意味、理由、内容の理解															
	213～260	読解：説明文、論説文、随筆、小説の読み方															
	261～280	JLPT模擬試験・解説															
	281～290	ニュース発表・スピーチ															
	291～300	新聞等ニュース記事の理解															
成績評価方法		期末試験50% 出席率10% 授業での取り組み10%、宿題10%、小テスト20%															
使用テキスト／教材		「新完全マスター日本語能力試験N1文法、語彙、文法」															
関連科目		ビジネス言語演習Ⅰ、ビジネス言語演習Ⅱ															
その他		毎日の積み重ねが大切です。自宅学習も頑張り、力を付けましょう。															

シラバス（授業概要）
2025 年度

2025 年度

授業科目名		卒業課題																				
学科・コース		国際交流科																				
担当教員		北條 彰子																				
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位										
演習				3		通年		必修		60		2										
授業目的 到達目標		・3年間の学びの集大成として、本校での学びと就職活動を振り返り、レポートにまとめる。学びの成果を発表する。																				
授業手法		・対面		○				・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド						
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業						フィールドワーク			
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○				ロールプレイ			
	プレゼンテーション		○				PBL						模擬授業						その他			
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略										わかる目標・できる目標										
	1～54	課題制作										① 本校での学びを振り返り、レポートに まとめることができる ② 就職先の業界について深く調べられる ③ 作成した課題について発表できる										
	53～60	発表																				
成績評価方法	課題提出60% 取り組み20% 発表20%																					
使用テキスト ／教材	なし																					
関連科目																						
その他	3年間の集大成として積極的にとりくみましょう。																					

シラバス（授業概要） 2025 年度

2025 年度

授業科目名	エアラインTOEIC対策Ⅱ									
学科・コース	国際交流科									
担当教員	松永 清美									
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位				
講義	・演習	3	通年	必修	60	4				
授業目的 到達目標	エアライン業界への就職に必要なTOEICのスコア600点以上の取得と自己最高得点を目指します。生活や就職先で即戦力として使えるフレーズを習得します。									
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業			反転授業			調査授業		フィールドワーク	
	双方向アンケート			ペアワーク	○		グループワーク	○	ロールプレイ	○
	プレゼンテーション	○		PBL	○		模擬授業		その他	
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標				
	1～6	授業説明、模擬テスト、解答・解説				① TOEIC各パートの特徴を理解する ② 英語の音声に近い発音の習得をする ③聴解力を高める ④実際に仕事先で使えるフレーズや単語を身につける ⑤目標の設定と自己最高点を目指すための課題を把握する ⑥アクティブラーニングを取り入れ、学ぶことに主体性を持つ				
	7～12	Unit1～3								
	13～18	TOEIC模試、解答・解説								
	19～24	Unit4～6								
	25～30	Unit7～9								
	31～32	前期末テスト								
	33～38	TOEIC模試、解答・解説								
	39～44	Unit10～12								
	45～50	Unit13～15								
	51～58	読解、総復習								
	59～60	後期期末テスト								
成績評価方法	期末テスト・小テスト50% 平常点（出席率・授業態度・課題提出）50%									
使用テキスト／教材	『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE』 『TOEICボキャブラリーブスター』									
関連科目	エアラインTOEIC対策Ⅰ、TOEIC上級【必修選択科目】									
その他	電子辞書、または英和辞典を持参すること									

2025 年度

授業科目名		エアライン英語															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		阪本 知恵															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・ 講義		3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		接客英語、航空基礎英語、訓練での知識を英語で学び、様々な表現や単語に触れることで英語力の底上げを図ります。サービスロールプレイでは他コースの学生に英語でおもてなしをします。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		概要説明 1年次習得の復習								① 航空業界で使われる表現がわかる ② 客室実習Ⅰで学んだサービスを英語で提供できる ③ 想定される機内会話の様々なパターンを知り、表現を習得する ④ 他コースの学生にも自然な表情と所作でサービスできる ⑤ 英語アナウンスの表現を知る。 ⑥ 航空業界だけでなく観光業で役立つ表現を身につける						
	3～8		テキスト演習														
	9～10		英語アナウンス														
	11～18		CL1連携授業準備 概要GRP分け、シナリオ作成														
	19～22		ロールプレイ練習														
	23～24		CL1連携授業リハーサル&本番														
	25～30		テキスト演習 観光業界英語を学ぶ														
成績評価方法		[前] 出欠席 (30%) 授業参加度 (30%) ロールプレイ評価 (40%) [後] 出欠席 (30%) 授業参加度 (30%) 授業内小テスト [前+後] (40%)															
使用テキスト／教材		English for Tourism Professionals 講師作成プリント															
関連科目																	
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		客室実習Ⅱ																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		阪本 知恵																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実技				3		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		客室実習Ⅰで学んだ基本を生かし、想定されるイレギュラー、クレーム対応等、状況に合わせた臨機応変な対応ができることを目標とします。コース外連携授業や学外の方との連携授業を通し、実践力・対応力を身につけます。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～6		サービス業務実習復習								① 客室実習Ⅰで学んだものをスムーズに発揮できる ② 学外の方に接客ロールプレイにて評価をもらい成長に繋げることができる ③ 適切な言葉遣い、表情コントロールができる ④ イレギュラー対応ができる ⑤ 幅広い年齢層に対応できる ⑥ 状況に応じた立居振舞ができる ⑦ グループ内で主体的にアイデアを発想できる ⑧ グループ内で協力し、サービスを組み立てることができる ⑨ ロールプレイ実習では航空専門用語を積極的に使用し対応できる							
	7～12		保安業務実習復習															
	13～20		サービス実践授業準備															
	21～22		サービス実践授業															
	23～30		AA/AS コース外連携授業 準備															
	31～40		AA/AS 学外連携合同実習 準備（ま・あ・る）															
	41～42		前期評価															
	43～46		AA/AS 学外連携合同実習（ま・あ・る館外講座）															
	47～48		AA/AS コース外連携授業															
	49～60		AA/AS 学外連携合同実習（高齢者施設訪問）															
成績評価方法		[前] 出欠席（20%）企業様評価・レポート（25%）評価対象ロールプレイ（55%） [後] 出欠席（20%）課題・取組姿勢（40%）評価対象ロールプレイ・レポート（40%）																
使用テキスト／教材		・エアラインテキスト ・講師作成プリント等																
関連科目		客室実習Ⅰ、航空基礎知識																
その他		・身だしなみを整えて受講すること（女子学生はスカーフ着用必須） ・実務経験のある教員が担当する科目である																

2025 年度

授業科目名		面接対応Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		阪本知恵															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		一年次に身につけた自己表現力と会話力を更に磨き、航空業界の面接に対応できる力を養います。就職後に社会人としても生かせるプレゼンテーション力を身につけます。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		企業が求める人材像の理解と自己分析								①自己分析に基づき長所をアピールできる。 ②企業が求める人材像を理解する。 ③②に基づき自己表現できる。 ④会話の中で自身の意見を伝えられる。 ⑤会話の中で自身の興味関心を伝えられる。 ⑥感じの良い会話が続けられる。 ⑦ディスカッションで自分の考えを まとめて話せる。 ⑧問題解決に積極的に取り組める。 ⑨表現力を高め、課題に対しての プレゼンテーションができる。						
	3～16		模擬面接：企業別対策														
	17～24		模擬面接：グループディスカッション														
	25～30		プレゼンテーション														
成績評価方法		出欠席：10% 取り組み姿勢：40% プレゼンテーション、製作物：50%															
使用テキスト ／教材		面接テキスト(オリジナル)・講師作成プリント等															
関連科目		面接対応Ⅰ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

2025 年度

授業科目名	サービス介助												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	大川 香織・小澤 恵巳子												
授業形態(主)	授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
演習	・講義		3		通年		必修		30		1		
授業目的 到達目標	機内で使われる接客手話の習得を目指します。また、サービス介助士資格を持つ教員からお手伝いが 必要なお客様への気配りやサービスと介助方法を学びます。												
授業手法	・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他
授業内容・授業計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標				
	1～2	1年生の復習 会話：搭乗 手荷物サービス							① 機内での会話を手話で話す ② 表情を豊かに、伝える努力をする ③ 福祉関係の法律や制度、用語を学ぶ ④ 手話単語を正確に覚える ⑤ ろう者と機内会話に挑戦する ⑥ 合理的配慮について理解する ⑥ 車いすの操作・介助が出来るようになる ⑦ 視覚障がい者の状況が理解できる ⑧ 視覚障がい者の介助が出来るようになる ⑨ 航空会社の対応を理解し、実践に移せる ⑩ 高齢者について理解し、介助が出来る				
	3～4	会話：安全性チェック 遅延 座学：テキスト											
	5～6	会話：飲み物サービス 座席案内 食事 座学：テキスト											
	7～8	会話：お出迎え お見送り サービス物品提供 (機内) 座学：テキスト											
	9～10	会話：具合の悪くなったお客様への対応 空港案内 座学：テキスト											
	11～12	会話：お客様を迎えましょう (空港) 座学：テキスト											
	13～14	合理的配慮について学ぼう ゲスト講師：ろう者と話そう 講義											
	15～16	前期テスト/復習 DVD視聴											
	17～18	合理的配慮の理解と様々なケースを考える											
	19～20	航空会社の合理的配慮と車いす対応について											
	21～24	高齢者の定義と接客対応について 高齢者疑似体験											
	25～26	高齢者施設での実習準備											
	27～28	視覚障がい・身体障がい者の状況と介助 介助犬について・クロックポジションの活用											
29～30	後期テスト/筆記試験と実技												
成績評価方法	テスト60% 出席率40% (手話) 出欠席 30%、取り組み姿勢 20%、本試験 (確認テスト含む) 50% (介助)												
使用テキスト ／教材	オリジナルテキスト「2025年度 手話テキスト」 (手話) オリジナルテキスト「サービス介助」、高齢者疑似体験セット (介助)												
関連科目	手話演習												
その他	実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		エアラインマインドⅡ													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		小尾純子・大橋美穂子													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・実技		3		通年		必修		30		2			
授業目的 到達目標		目標に向かって努力し続ける強い精神力を持ち、客室乗務員として、航空業界で働く人材として必要な創造力、対応力、精神力を身につけることを目指します。													
授業手法		・対面		○	遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ	○	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～2	体力の維持、食事の重要性①								① 変化に敏感で違いに共感できる。 ② 雑談から相手の要望を聞きだす力 ③ 気が利く人になる。 ④ サービスへのこだわりを持つ。 ⑤ 心身の健康を保つ方法を理解する。 ⑥ タイムプレッシャーに強くなる。 ⑦ 学び、成長を続ける意欲を持つ。 ⑧ 気持ちの切り替えができる。 ⑨ TEAM力向上のCOMを理解する。					
	3～4	食事の重要性② 筋力の必要性													
	5～6	共感すること													
	7～8	TEAM力向上の為のコミュニケーション													
	9～10	会話力は想像力 事例実習													
	11～12	クレームに繋がらないための事例研究													
	13～14	クレーム対応の基本と事例研究													
	15～16	評価													
	17～18	自律神経ケア													
	19～20	クレーム対応 事例研究													
	21～22	クレーム対応 事例実習													
	23～24	クレーム対応 事例実習													
	25～26	客室乗務員のキャリアパス													
27～28	まとめ														
29～30	評価														
成績評価方法		毎回の提出物60% 期末試験40% 欠席した場合も提出物の指示を教員に確認し、提出すること													
使用テキスト／教材		講師オリジナル書き込みノート、一日一行 自由国民社													
関連科目		エアラインマインドⅠ													
その他		実務経験がある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		異文化研究																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		松永清美・小澤恵巳子・山梨千恵子・平野広幸・永松典子																
授業形態(主)				履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義				3		後期		必修		30		2						
授業目的 到達目標		異文化を理解し、航空業界はもとより社会人として文化の差異を尊重しながら仕事に活かせるようになることを目標とします。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
	双方向アンケート						ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション		○				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		マナープロトコールについて知る①								① 異文化を理解する ② 自国について再認識する ③ 自分自身の考え方や価値観を明確にする ④ 異文化理解に基づきサービスを創造できる ⑤ 通訳ボランティアを通して異文化に触れ 対応力を身に付ける ⑥ 働くうえで、日本との違いを理解しそれを 認める ⑦ 異文化を学び視野を広げる ⑧ プロコトールに基づいたサービスができる							
	3～4		マナープロトコールについて知る②															
	5～6		自国について															
	7～10		自分の価値観を知る															
	11～14		世界の宗教															
	15～20		様々な国の比較															
	21～26		異文化理解															
	27～30		清水港客船ボランティアについての講義															
成績評価方法		提出物・清水港ボランティア活動の課題レポート50%・授業態度20%・出欠席30%																
使用テキスト ／教材		講師オリジナルプリント																
関連科目		エアラインマインドⅠ																
その他		各自、清水港寄港客船のお客様への通訳ボランティアに参加します。（授業外）																

2025 年度

授業科目名		TOEIC上級（選択）															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		阪本知恵															
授業形態（主）		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		3		後期		必修選択		30		2					
授業目的 到達目標		観光業界全般で必要とされる高い英語力を習得します。実力の裏付けとしてTOEIC高得点獲得を目指し、自己学習の習慣を徹底します。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～18		テキスト演習 リーディング・リスニング								① TOEIC各パートの特徴を理解する ② 正解へのポイントを理解する ③ 正解へのポイントを問題に活かせる ④ 英語の音声に近づけて再現できる ⑤ 頻出単語を習得する ⑥ 頻出イディオムを習得する ⑦ 言い換え問題に対応できる						
	19～30		模擬試験														
成績評価方法		出欠席 (20%) 単語テスト (40%) 小テスト (40%)															
使用テキスト ／教材		・ 公式TOEIC LISTENING&READING プラクティス リーディング編 リスニング編 （国際ビジネスコミュニケーション協会） ・ 講師作成プリント															
関連科目		エアラインTOEIC対策 I															
その他		※毎授業辞書を持参すること															

シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名		秘書知識（必修選択科目）															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		松永 清美															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・実習		3		後期		必修選択		30		2					
授業目的 到達目標		秘書業務に限らず、社会人として心得ておきたい接遇マナーや文書作成等を学びます。 また経済用語や社交場の知識など組織で役に立つ知識を習得します。秘書検定2級取得を目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		秘書の仕事と必要とされる資質								①社会人に必要な自覚と心構えがわかる ②人間関係調整力が身に付く ③企業活動の目的と組織がわかる ④社会常識として知っておきたい用語がわかる ⑤上手な話し方・聞き方のコツがわかる ⑥報告・説明のポイントがわかるようになる ⑦接遇用語が使えるようになる ⑧交際業務について理解することができる ⑨秘書的業務についての理解を深め、就職に活かせる						
	3～5		職務知識（秘書の仕事の機能と上司との関連）														
	6～9		一般知識（社会常識・時事問題等）														
	10～14		マナー接遇（人間関係とマナー・話し方・交際）														
	15～18		技能（会議・文書柵瀬・資料管理・スケジュール管理）														
	19～26		2級検定対策（実問題より）														
	27～30		総まとめと期末試験　ロールプレイング応対練習														
成績評価方法		小テスト（30%）　期末試験・検定結果（50%）　出欠席・取り組み姿勢（20%）															
使用テキスト／教材		秘書検定2級実問題集・パーフェクトマスター（早稲田教育出版）															
関連科目		客室実習Ⅰ															
その他																	

授業科目名		旅客実習Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		今井 美佳															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		1年次に学んだ基礎を踏まえ、更に専門的なイレギュラー対応、クレーム対応などを学びます。様々なシチュエーションに臨機応変に対応できるマインドとホスピタリティの育成を目標とします。コース外連携授業や館外講座を通し、実践力・対応力を身につけます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		敬語と接遇用語、内線外線対応								① 美しい身だしなみ、所作で、正しい敬語や接遇用語を習得する。 ② 突然起こりうるイレギュラーな場面での初期対応ができる。 ③ 仲間同士で協力し顧客満足度を高める為のマインドを習得する。 ④ お客様への説明力、表現力を高めワンランク上の接客対応を習得する。 ⑤ 授業内外でのオンとオフの切り替えができる。 ⑥ 館外講座を通して企画力、発信力を習得する。						
	5～12		手荷物破損他イレギュラー時における初期対応														
	13～14		前期試験														
	15～26		コース連携合同実習														
	27～38		学外連携合同実習（ま・あ・る館外講座）														
	39～50		学外連携合同実習（高齢者施設訪問）														
	51～54		CSについて														
	55～58		総復習														
	59～60		レポート作成														
成績評価方法		【前】・期末試験60%、ロールプレイ30%、出席率・授業態度10% 【後】・ロールプレイ60%、レポート提出30%、出席率・授業態度10%															
使用テキスト／教材		旅客実習テキスト、講師作成資料															
関連科目		旅客実習Ⅰ、航空基礎知識、グランドハンドリング概論															
その他		アピアランスを整えて授業に参加すること。制服・スカーフ着用のこと。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

シラバス（授業概要） 2025 年度

2025 年度

授業科目名		TIM II															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		中西 裕子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・ 演習		3		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		1年次に学んだ「TIMATIC」の読み取りを瞬時にできる速読力を身に付けることを目標とします。さらに、搭乗カウンター業務のロールプレイで、実際に「TIMATIC」を用いて規則を読み取り、お客様へのスムーズな搭乗手続き案内のスキルを身に付けることを目指します。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		1年の復習：国籍・行き先は教員が適宜選択								①乗り継ぎ先の入国のルールがわかる ②お客様案内に必要な箇所のルールのみ即座に読み取ることができる ③滞在可能期間と査証の有効期限の読み取りが即座にできる ④チェックインに必要な条件の説明ができる ⑤入国できない場合の説明ができる ⑥TIMATICを読みながら、お客様案内が同時にできる ⑦自然な流れでチェックインロールプレイができる。						
	5～8		乗り継ぎのあるTIMATICの読み取り														
	9～12		滞在可能期間と査証の有効期限の読み取り														
	13～16		お客様へのルールの案内方法														
	17～18		前期筆記試験														
	19～22		パスポートチェックとTIMATICの読み取り・お客様案内演習														
	23～26		チェックインロールプレイ演習														
	27～30		チェックインロールプレイ試験														
成績評価方法		期末筆記試験 40%、ロールプレイ40%、平常点20%（出席率、授業態度）															
使用テキスト／教材		TIMATIC例文、教員作成プリント															
関連科目		TIM I															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。 ・英和辞書を必ず持参すること。															

授業科目名		プレゼンテーション														
学科・コース		国際交流科														
担当教員		小尾純子														
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位				
演習		・実技		3		通年		必修		30		1				
授業目的 到達目標		仕事の報連相の基本である聞く力と伝わる話し方を身につけることを目指します。														
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2	話すこと聞くことの重要性								① 聞き流さない聞き方ができる。 ② 反応力を身につける。 ③ 論理的に考えられる。 ④ 筋道を立てて話せる。 ⑤ 伝わる話し方を身につける。 ⑥ 必要な資料を探すことができる。 ⑦ ディベートの意義を理解する。 ⑧ ディベートの流れを理解し試合ができる。						
	3～4	ディベート入門1														
	5～6	ディベート入門2														
	7～8	シナリオディベート														
	9～10	フローシートディベート/ブレインストーミング														
	11～12	練習ディベート準備と実施														
	13～14	練習ディベート振り返りと試合ディベートの準備														
	15～16	資料の収集と立論の組み立て														
	17～18	資料の収集と反駁														
	19～20	反駁と尋問														
	21～22	試合ディベート														
	23～28	伝わる話し方														
	29～30	プレゼンテーション														
成績評価方法		出欠席60%、取り組み姿勢（宿題など提出物含）40%														
使用テキスト／教材		大学生のためのディベート入門 ナカニシヤ出版・講師作成プリント														
関連科目		面接対応														
その他		配布プリントは毎回持参すること。録音のために各自のスマホを使います。														

2025 年度

授業科目名		航空予約システム演習Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		中西 裕子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習				3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		1年次に学んだ基本的な予約作成から、運賃計算やSpecial Service Request、Other Service Information等の 応用スキルを習得し、実践的に使える操作力を身に付けることを目標とします。9月にはアマデウス検定、 Amadeus Reservation Fundamentals 合格を目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		1年次の復習								①正確なPNRを作成することができる ②迅速にPNRを作成することができる ③Special Service Requestを理解することができる ④SSRを正確に入力することができる ⑤PNRの各項目の修正ができる ⑥キャンセルの手順を理解して実行できる ⑦検定試験問題を時間内に解くことができる ⑧ロールプレイ形式でお客様の対応をしながら予約を作成することができる						
	3～4		(SSR)Special Service Request (フリークエントフライヤープログラム)														
	5～6		(SSR)Special Service Request (スペシャルミール)														
	7～8		(SSR)Special Service Request (シートリクエスト)														
	9～10		(OSI)Other Service Information														
	11～14		PNR項目のキャンセル・修正														
	15～16		前期評価														
	17～24		検定対策、模擬試験														
	25～28		予約作成応用 (お客様対応)														
	29～30		後期評価														
成績評価方法		【前期】 期末試験 80%、平常点20% (出席率、授業態度) 【後期】 検定結果 80%、ロールプレイ形式試験 20%															
使用テキスト／教材		ユーザーガイド予約・アマデウス予約クイックガイド (amadeus発行)、教員作成プリント															
関連科目		航空予約システム演習Ⅰ、航空基礎知識															
その他		クイックガイドの見方をマスターすること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		手話Ⅱ																							
学科・コース		国際交流科																							
担当教員		田宮裕乃																							
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位													
演習		・講義		3		通年		必修		30		1													
授業目的 到達目標		全国手話検定4級合格を目指し、より実践的な手話を習得します。その中で聴覚障害者への配慮についてや、聴覚障害者向けのサービスやについても学びます。																							
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド											
アクティブ ラーニング		事前学習型授業						反転授業						調査授業						フィールドワーク					
		双方向アンケート						ペアワーク			○			グループワーク						ロールプレイ					
		プレゼンテーション						PBL			○			模擬授業						その他					
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標												
	1～2		手話Ⅰ 復習										① 手話語彙を増やす ② 手話で接客ができる ③ 聴覚障害者への配慮ができる ④ 合理的配慮について理解する ⑤ ろう者との会話にチャレンジする ⑥ ろう文化を学ぶ ⑦ 手話検定4級に合格する												
	3～4		疑問文・時間に関する表現																						
	5～6		家族・友達のこと																						
	7～8		一日のこと																						
	9～10		一週間のこと																						
	11～12		一年間のこと																						
	13～14		あなたの住む町や故郷のこと																						
	15～18		手話検定4級テキストまとめ																						
	19～20		合理的配慮（ゲストろう講師）																						
	21～22		前期試験																						
	23～24		手話検定対策																						
	25～26		手話検定試験4級受験																						
	27～30		接客手話																						
成績評価方法		前期 期末試験50% 小テスト30% 授業態度20% 後期 提出課題50% 小テスト30% 授業態度20%																							
使用テキスト／教材		DVDで学ぶ手話の本 手話テキスト（接客用会話）																							
関連科目		手話Ⅰ																							
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																							

2025 年度

授業科目名		サービス介助															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		小澤 恵巳子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		高齢者や配慮の必要なお客様が広い空港内でスムーズにご利用いただけるよう、サービス介助士の資格を有する教員から気配りやサービス介助の方法を学びます。即戦力となる介助方法の習得を目指します。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標				
	1～4		義務化された合理的配慮についての理解										①合理的配慮の目的が理解できる ②航空会社の対応を理解し実践できる ③サービス介助の心と技術が身につく ④車いすの操作と留意点がわかる ⑤車いすの介助が出来る ⑥高齢者の状況が理解できる ⑦高齢者の介助が出来る ⑧視覚障がい者の状況が理解できる ⑨視覚障がい者の介助が出来るようになる ⑩聴覚障がい者等の現状が理解できる				
	5～6		航空会社の合理的配慮について 航空会社・サービスの現場での合理的配慮と留意点														
	7～8		ユニバーサルなサービスに関する用語の理解														
	9～12		車いす使用者への介助方法と車いす操作														
	13～14		高齢者の状況理解と介助 前期末試験														
	15～16		高齢者疑似体験														
	17～22		高齢者施設での実習準備と実習														
	23～24		航空会社の車いす対応について														
	25～26		視覚障がい者の状況と介助														
	27～28		聴覚障がい者の状況と介助 介助犬・クロックポジションについて知る														
	29～30		サービス介助まとめ 後期末試験														
成績評価方法		期末試験（実技を含む）50%、出欠席30%、取組姿勢20%															
使用テキスト ／教材		サービス介助オリジナルテキスト/高齢者疑似体験セット															
関連科目		手話Ⅰ															
その他		＊実務経験がある教員が担当する科目である。															

授業科目名		GSキャリアデザイン													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		中西 裕子・大橋 美穂子・蓬莱 正樹													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・ 演習		3		通年		必修		60		4			
授業目的 到達目標		航空会社への就職を目指し、必要とされる要素をあらゆる面から学びます。また、航空業界への早期就業を見越し、知識の定着と自分の意見を発する力や、社会人としてのマナーやマインドを強化するとともに、体のメンテナンス方も含め、社会人耐久力を身に付けることを目標とします。													
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド	
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～4	社会人としてのビジョン								①将来のビジョンを明確化できる ②社会人としての意識を形成する ③社会人としてのマナーを身に付ける ④マインドの切り替えの仕方を体得できる ⑤就職先の企業で必要な知識を体得できる ⑥航空業界の基礎知識をあらゆる面から理解できる ⑦航空業界で働くマインドをセットできる ⑧自分の意見を臆することなく発することができる ⑨自分の体と向き合い、健康な生活を送れる方法を体得できる					
	5～10	航空業界用語①													
	11～16	航空業界用語②													
	17～20	自己表現													
	21～30	体のメンテナンス法（栄養、エクササイズ）													
	31～34	メンタル維持													
	35～46	就職活動スライド作成													
	47～48	就職活動についてのプレゼンテーション													
	49～60	進路別ワーク													
成績評価方法		【前期】 平常点60%、課題20%、出欠席20% 【後期】 プレゼンテーション60%、平常点20%、出欠席20%													
使用テキスト ／教材		旅客実習テキスト、面接テキスト、教員作成プリント													
関連科目		面接対応、SPI対策、TOEICボキャブラリー													
その他		進路別ワークでは、それぞれの就職先、もしくは目指す企業についての研究をします。													

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

2025 年度

授業科目名		接遇中国語																				
学科・コース		国際交流科																				
担当教員		楊 移苗																				
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位										
講義		・ 演習		3		前期		必修		30		2										
授業目的 到達目標		空港内の基本的な接客会話、アナウンスと突発的なトラブルなどに対応できることを目標とします。																				
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド								
アクティブ ラーニング		事前学習型授業								反転授業								フィールドワーク				
		双方向アンケート								ペアワーク								ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション								PBL								その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標									
	1～4		空港内接客用単語										①空港接客会話文の意味を理解することができる。									
	5～12		空港内接客用会話										②空港内の基本的な接客会話ができる。									
	13～20		空港内接客用アナウンス										③空港内の基本的なアナウンスができる。									
	21～26		スキルコンテスト準備										④演習を通して即戦力を身に着けることができる。									
	27～30		スキルコンテスト										⑤コンテストを通して達成感を実感することができる。									
成績評価方法		スキルコンテスト（50％）、出席率・授業態度（50％）																				
使用テキスト ／教材		講師作成プリント																				
関連科目																						
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																				

シラバス（授業概要）
2025 年度

シラバス（授業概要）
2025 年度

授業科目名		食文化とレストラン													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		水谷 和史													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・ 演習		3		通年		必修		60		4			
授業目的 到達目標		レストランサービス技能検定学科試験の合格を目標とします。レストランサービスに必要な食文化や食材、ワイン、チーズ等幅広い知識を学びます。													
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ		
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～6	【第1章】食材、料飲等の基礎知識 食品/西洋料理に使用される主な食材/一般的な西洋料理調理方法/飲料の種類及び特徴/メニュー/西洋料理の食事用具・備品								① 食材・飲料の知識					
	7～12	【第2章】接客の基本 料飲サービスの役割 /特徴/条件/資質								② レストランサービスの基本					
	13～16	【第3章】宴会とレストランサービス 宴会/レストラン/接客案内/注文/テーブルサービス/料理の仕上げ/予約・解約/メニュー管理/料理、食器等の異常/一般的な救護方法/食事のサービスマナー/食事の国際習慣								③ 宴会サービスの基本 ④ 食文化 ⑤ 防火・防災設備					
	17～22	【第4章】食文化 食文化史と現状の食環境/食文化と食事作法/西洋料理の変遷								⑥ 苦情対応と遺失物処理					
	23～26	【第5章】施設管理 設備の知識/防災/設備の維持管理								⑦ 食品衛生					
	27～30	【第6章】苦情対応と遺失物の取扱い 苦情対応/好ましくないお客への対応/遺失物の取扱い								⑧ 公衆衛生					
	31～34	【第7章】食品衛生及び公衆衛生 食品衛生/公衆衛生/食品衛生								⑨ 安全衛生					
	35～38	【第8章】安全衛生 労働災害/危険有害性/労働安全衛生の関する法令								⑩ HRSレストランサービス技能士試験取得					
	39～42	前期期末試験 HRS学科試験過去問題解答演習													
	43～50	国家資格 HRSレストランサービス技能士試験受験													
	51～58	現場における食材・料飲等の基礎知識、食品衛生及び公衆衛生													
59～60	後期期末試験														
成績評価方法		前期・後期末試験 100%													
使用テキスト／教材		・ 西洋料理 料飲接客サービス技法 ・ レストランサービス スタンダードマニュアル													
関連科目		ホテル概論													
その他		料飲全般についての知識を深めながら、二次試験（実技）に向け頑張りましょう。 ※実務経験のある教員が担当する授業である。													

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

授業科目名		料飲・宴会サービス実務Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		水谷 和史															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・演習		3		後期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		1年次に身に付けた基本スキルを更に発展させることを目標とします。バーやレストランにおけるカクテルのレシピや作り方、宴会場での飲料の準備など、応用のサービス技術を実践を通して学びます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		シルバー（カトラリー）、グラスセッティング（撒き方、拭き上げ、セッティング）の詳細								① 実務的なテーブルセッティングの準備 ② ウイスキーの提供に伴う知識とスキル ③ 実用的なサーバーの使い方 ④ ワインの提供に伴う知識とスキル ⑤ ビルド（カクテル）の技法の知識とスキル ⑥ ステア（カクテル）の技法の知識とスキル ⑦ シェイク（カクテル）の技法の知識とスキル						
	5～6		プラッターサービス（サーバーサービスの応用）														
	7～10		ウイスキーのサービスの準備・提供														
	11～14		ワインサービスの準備・提供														
	15～18		カクテルの準備・提供（ビルド、ステア、シェイク）														
	19～20		期末試験														
成績評価方法		期末試験（100%）															
使用テキスト／教材		レストランサービスマニュアル															
関連科目		料飲・宴会サービス実務Ⅰ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		バンケットオペレーション															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		水谷 和史															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 演習		3		前期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		ホテルの宴会場やレストランで行われる一連の流れを実施することで、オペレーション力を養います。また状況に応じた臨機応変さ、先を読む力を育みます。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業解説、宴席の種類								①先を読む力 ②臨機応変さ ③チームワーク ④実践力 ⑤宴席の種類の理解						
	3～14		正餐パーティーのオペレーション														
			準備と実践														
	15～24		レストランのオペレーション														
			準備と実践														
	25～28		婚礼のオペレーション														
	29～30		まとめ														
成績評価方法		前期：出欠（30％）、期末試験（70％）															
使用テキスト ／教材		教員作成資料															
関連科目		料飲・宴会サービス実務Ⅰ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		レストランサービス実務																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		水谷 和史・青柳 宗宏																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実技				3		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		1年次に身に付けた技能を基にお客様に合わせたサービスの修得を目標とします。オーダーテイクを交えロールプレイングを行いレストランサービス技能検定技能試験に臨みます。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ				
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～30		HRS二次（実技）ベーシック対策授業								① 座席案内 ② メニューの提示 ③ 料理のサジェスチョン ④ レストランのドリンクサービス ⑤ レストランの料理サービス ⑥ グラスの扱い方 ⑦ シルバーの扱い方 ⑧ プレーットの扱い方 ⑨ テーブルセット ⑩ バッシング							
	31～34		前期期末試験															
	35～52		実技試験の課題発表後（朝食又は、昼食）課題に沿った集中トレーニング															
	53～56		基本作業を再確認															
	57～60		後期期末試験															
成績評価方法		前期・後期期末試験（実技）100%																
使用テキスト／教材		基礎からわかる レストランサービス スタンダードマニュアル																
関連科目		料飲・宴会サービス実務Ⅰ																
その他		時間を意識して取り組むこと。また、周囲の動きをよく見て、先を読んだ行動をすること。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		ホテルマネジメント																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		青柳 宗宏																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・ 演習		3		前期		必修		30		2						
授業目的 到達目標		ホテルをビジネスとしてとらえる視点を養うことを目標とします。接客部門以外の仕事も学び、ホテルについて一層の理解を深めます。また、ホテルの運営にも触れていきます。																
授業手法		・ 対面				・ 遠隔				・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業					反転授業					調査授業					フィールドワーク	
		双方向アンケート					ペアワーク					グループワーク					ロールプレイ	
		プレゼンテーション					PBL					模擬授業					その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		導入 ホテルマネジメント導入								① マネジメントの役割 ② マネージャー業務 ③ マーケティングと営業業務 ④ 広報・宣伝・企画の業務 ⑤ 施設管理業務 ⑥ ホテル関連法令 ⑦ 仕入・購買業務 ⑧ 経理・会計業務							
	3～6		第6章 マーケティング部門															
	7～11		第7章 総務・人事部門															
	12～17		第8章 施設管理部門															
	18～23		第9章 仕入れ・購買部門															
	24～30		第10章 経理・会計部門															
成績評価方法		期末筆記試験100%																
使用テキスト ／教材		ホテルビジネス基礎編／教員作成資料																
関連科目		ホテル概論																
その他		1年次の基本知識が必要です。復習も兼ねて学習を継続しましょう。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		プロトコール													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		青柳 宗宏													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義		・ 演習		3		後期		必修		30		2			
授業目的 到達目標		国際儀礼を学び、賓客接遇の基本を身に付けることを目標とします。テーブル席次や国旗の取り扱い、呼称、敬称等、数多くある国家間の取り決めに学びます。													
授業手法		・ 対面		・ 遠隔		・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド					
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略							わかる目標・できる目標					
	1～4		プロトコールの基本・事例							① プロトコールの基本 ② 国旗・国家の象徴の取扱い方 ③ 会議・会食の席次のプロトコール ④ サービス実務での応用 (宿泊・料飲・宴会) ⑤ 正装・勲章の知識 ⑥ 異文化理解の基礎（宗教と生活習慣） ⑦ 敬称・呼称 ⑧ 賓客接遇のための基本知識					
	5～8		国旗等、象徴の扱い方												
	9～12		席次・会食のプロトコール												
	13～16		サービス実務での応用（宿泊・料飲・宴会）												
	17～20		正装と勲章												
	21～24		異文化理解の基礎（宗教と生活習慣）												
	25～28		敬称・呼称												
	29～30		期末試験												
成績評価方法		小テスト（20％）・期末筆記試験（80％）													
使用テキスト／教材		教員作成資料													
関連科目		ホテル宿泊実務													
その他		国際化が進む中で、今後さらにプロトコールの重要性は高まります。しっかり覚えましょう。 ※実務経験のある教員が担当する授業である。													

2025 年度

授業科目名	ブライダル概論Ⅱ									
学科・コース	国際交流科									
担当教員	草場 美奈子									
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位				
演習		3	通年	必修	30	1				
授業目的 到達目標	1年次の基礎を応用し、自身でテーマ設定、プランニングができることを目標とし、完成後は発表を行います。また学習の成果として、実際の会場で模擬ブライダルを実施します。									
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業	○	フィールドワーク	○		
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク	○	ロールプレイ	○		
	プレゼンテーション	○	PBL	○	模擬授業	○	その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標				
	1・2	オリエンテーション 模擬ブライダル研修の振り返り				① プランニングができる ② 挙式オペレーションがわかる ③ 各役割の関わり方がわかる ④ 披露宴の進行がわかる ⑤ ゲストコントロールができる ⑥ 打ち合わせ業務の流れがわかる ⑦ ブライダルを相対的に理解できる				
	3～6	ウェディングプランナー打ち合わせ業務 * ペーパーアイテム（招待状）								
	7～10	ウェディングプランナー打ち合わせ業務 * ペーパーアイテム（招待状の説明・席次表作成と発注）								
	11～20	挙式オペレーション								
	20・21	前期 期末試験								
	21・22	披露宴キャプテン業務								
	23・24	BGM・映像関連の知識								
	25～30	模擬ブライダル								
成績評価方法	前期 期末試験（持ち込み不可）100% 後期 平常点（出席、取り組み姿勢、ロールプレイング） ※模擬ブライダルの練習に入るため後期は出席を重視する									
使用テキスト ／教材	ブライダルコーディネーターテキスト<スタンダード>/ブライダル実務/プリント									
関連科目	ブライダル実務/ブライダル概論Ⅰ/ホテル概論/料飲・宴会サービス実務Ⅰ バンケットオペレーション/ブライダルコーディネート									
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である									

シラバス（授業概要）
2025 年度

シラバス（授業概要）
2025 年度

授業科目名		ブライダルコーディネート																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		草場美奈子・前川理子・田寄節子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
演習				3		後期		必修		30		1						
授業目的 到達目標		1年次に学んだ基礎を活かし、ブライダルコーディネート技術の修得を目的とします。集大成としての模擬ブライダルでは、コーディネートやアイテムの作成なども行います。演習形式																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク	
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○		ロールプレイ	
	プレゼンテーション		○				PBL						模擬授業		○		その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標					
	1～2		ブライダルテーブルプランニング										① ブライダルコーディネートができる ② テーブル装花の構造が分かる ③ テーブル装花の扱いができる ④ ブーケの構造が分かる ⑤ 花束の扱いが分かる ⑥ ブライダル小物についてわかる					
	3～4		テーブルフラワープランニング															
	5～6		ブライダルブーケプランニング															
	7～8		プランニング発表															
	9～12		ゲストテーブル装花作成															
	13～16		ブライダル小物作成															
	17～20		ブライダルブーケ作成															
	21～30		メインテーブル装花作成															
成績評価方法		①発表・プレゼンテーション40% ②積極性・出席率30% ③習熟度・理解度30%																
使用テキスト ／教材		・TEXTBOOKテーブルコーディネート ・ブライダル概論 ・はさみ																
関連科目		ブライダル概論Ⅱ ・テーブルコーディネート ・フローリスト技術																
その他		実務経験がある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		海外観光地理															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		杉山三幸															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				3		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		海外ツアーにおける観光地の知識を得ることを目的とします。所在地・歴史・祭り・名産品など、観光資源全般について学習し、世界旅行地理検定にもチャレンジします。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画		時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
		1～4		【東南アジア】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産								① 世界各国の観光地情報 ② 旅行地理検定初級レベルの知識					
		5～8		【中近東】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		9～12		【ヨーロッパ】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		13～16		【アフリカ】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		17～20		【北米】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		21～24		【南米】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		25～28		【オセアニア】国名・首都・通貨・言語・主要観光地・世界遺産													
		29～30		総復習 過去問題 答案練習													
成績評価方法		評価試験80% 出席率・学習意欲20%															
使用テキスト ／教材		海外観光資源、海外観光資源サブノート															
関連科目		国内観光地理、世界遺産知識															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名	海外実務総合													
学科・コース	国際交流科													
担当教員	白鳥佑弥 ・ 杉山和代													
授業形態(主)	授業形態	履修年次			履修学期			必修・選択		総時間数		単位		
講義		3			通年			必修		60		4		
授業目的 到達目標	海外渡航における注意点や必要となる手続きなど含めた基本的な知識と、海外渡航時に必要な基礎英語を習得する。													
授業手法	・対面	○			・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○			反転授業			調査授業			フィールドワーク			
	双方向アンケート				ペアワーク			グループワーク	○		ロールプレイ			
	プレゼンテーション				PBL			模擬授業			その他			
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標					
	1～8	3レター、2レター、旅券法基礎							① 世界の都市・空港の3レター ② 旅券・査証の役割 ③ 出入国・検疫・免税の基本 ④ フライトスケジュール・MCTの理解 ⑤ 時差計算 ⑥ 国際航空運賃規則 ⑦ 海外旅行時の英語・英会話					
	9～14	出入国法令（動植物検疫）												
	15～20	出入国法令（免税等、ワシントン条約）												
	21～24	フライトスケジュール見方、MCT												
	25～30	時差計算												
	31～36	所要時間計算												
	37～40	国際航空運賃の基礎定義・計算の基礎手順												
	41～48	旅行英語基礎												
	49～56	旅行英会話												
	57～60	まとめ												
成績評価方法	学期末試験40％、確認テスト40％、授業意欲・出席率20％													
使用テキスト／教材	旅行業務取扱管理者速習レッスン、教員作成資料													
関連科目	旅行業法規、国内運賃料金業務													
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である													

2025 年度

授業科目名		旅行業ICT基礎															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		白鳥佑弥															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・実習		3		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		旅行業務のICT化に対応するため、旅行各社のWEBサイトの特徴を研究と、オンライン販売の効果的な方法を実践的に学習します。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画		時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
		1～6		大手総合旅行会社のWEBサイト比較								① 魅せ方の効果的な方法 ② オンライン販売の方法					
		7～12		国内・海外OTAのWEBサイト比較													
		13～16		旅行予約の流れ													
		17～22		魅力的なWEBサイトについてまとめ													
		23～26		オンライン販売ロールプレイング													
		27～30		総合まとめ													
成績評価方法		課題発表30%、オンライン販売ロールプレイング50%、出席・授業態度20%															
使用テキスト／教材		教員作成資料															
関連科目		航空予約基礎															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名	旅行業務応用												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	乗松陽子												
授業形態(主)	授業形態	履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
講義	・実習	3		通年		必修		60		4			
授業目的 到達目標	接客対応と旅行パンフレット読解の応用力の習得を目標とします。実際の旅行会社カウンターを想定したロールプレイングを通して、お客様対応や提案方法を実践的に学習します。												
授業手法	・対面	○		・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業			フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○	ロールプレイ	○
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業			その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標				
	1～4	空港手続き確認、空港コード確認							① 海外旅行パンフレットの基本知識 ② 旅行代金算出方法 ③ お客様の要望に応じた施設提案 ④ 高度な接客 ⑤ ホテル施設の理解 ⑥ 旅行チラシの作成				
	5～10	海外パンフレット読解											
	11～18	海外パンフレット料金計算											
	19～28	デジタルパンフレット											
	29～38	ディズニーリゾートについて											
	39～48	カウンターロールプレイング											
	49～58	旅マップ・行チラシ作成											
	59～60	まとめ											
成績評価方法	評価試験50%、課題提出・ロールプレイング30%、出席率・学習意欲20%												
使用テキスト ／教材	海外旅行パンフレット、パソコン												
関連科目	旅行業務基礎												
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である												

2025 年度

授業科目名		航空予約演習															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		【前期】中西裕子 【後期】白鳥佑弥															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習				3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		国際航空予約システムにおける予約業務を習得することを目標とします。実際に操作しながら、海外航空便のフライト情報、空席照会など予約操作の学習をします。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標				
	1～2		各種コード、ヘボン式、航空予約システム起動と終了										① Amadeusシステムの予約操作 ② Amadeusシステムの情報照会				
	3～6		PNRの必須項目、各種コードの検索、スケジュール照会														
	7～10		空席照会、旅客データ、PNR作成														
	11～14		SSR作成、PNR修正・変更														
	15～22		前期まとめ、前期評価試験														
	23～24		PNR作成演習、小テスト														
	25～28		PNR分割・コピー、運賃表・ルールの見方														
	29～30		総合まとめ														
成績評価方法		評価試験50%、小テスト40%、出席率・学習意欲10%															
使用テキスト／教材		Amadeusユーザーガイド[予約]、Amadeusクイックガイド[予約]、教員作成資料															
関連科目		航空予約基礎、海外渡航基礎															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		ツアープランニング演習															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		【前期】乗松陽子 【後期】白鳥佑弥															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習				3		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		テーマに応じた団体旅行の業務(調査・企画・提案・添乗・精算 等)実行力習得を目標としています。前期は募集型バスツアーの企画・集客・添乗・精算について学び、後期は留学生の学校団体研修旅行の調査・企画・提案・添乗・精算を学びます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		個人旅行と団体旅行の違い								① 個人旅行の日程表・見積書作成 ② 団体旅行の日程表・見積書作成 ③ 個人旅行と団体旅行の違い ④ 旅行企画提案方法 ⑤ 団体旅行の添乗業務 ⑥ 旅行後の精算業務						
	3～8		ターゲット設定、募集ツアー企画作成・手配														
	9～14		募集チラシ作成、集客														
	15～18		指示書作成、添乗準備														
	19～28		添乗、精算														
	29～30		前期振返り、後期準備														
	31～32		国際交流科担当教員にヒアリング														
	33～34		受注型団体企画書作成の注意点														
	35～40		企画書(日程表・見積書)作成、添削指導														
	41～44		国際交流科担当教員に企画書提出・打合せ、採用企画書決定														
	45～50		手配、指示書作成、添乗準備、説明会準備														
	51～58		説明会、添乗、精算														
59～60		精算、総合まとめ															
成績評価方法		【前期】 日程表・見積書作成40%、添乗指示書作成40%、出席率・学習意欲20% 【後期】 日程表・見積書作成40%、添乗指示書作成40%、出席率・学習意欲20%															
使用テキスト／教材		国内観光資源、旅地図日本、静岡るるぶ、添乗指示書															
関連科目		ツアープランニング基礎															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		観光資源探求															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		白鳥佑弥															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習		・講義		3		後期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		地元静岡の新たな観光素材を発掘し、魅力ある観光情報の発信スキルも習得します。また、マイクロツーリズムへの理解を深め、実際に旅行プランの企画と実施をします。															
授業手法		・対面				・遠隔				・対面/遠隔		○		・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画		時間数		内容概略								わかる目標・できる目標					
		1～4		静岡市／静岡県の観光素材調査								① 観光資源発掘 ② 観光情報発信 ③ 旅行企画提案					
		5～8		静岡市内観光名所フィールドワーク													
		9～16		観光素材発掘調査・プレゼン資料作成													
		17～18		プレゼン・フィードバック													
		19～26		マイクロツーリズムツアー企画書作成（静岡市内または隣接市）													
		27～28		プレゼン													
		29～30		総合まとめ													
成績評価方法		調査課題40%、マイクロツーリズム企画書40%、出席・授業態度20%															
使用テキスト ／教材		旅行ガイドブック、教員作成資料															
関連科目																	
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		外国語会話Ⅱ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		金 小賢															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		通年		選択		30		1					
授業目的 到達目標		中国語の基礎表現を固め、多様な会話パターンを運用できることを目指す。実践力ある会話述を磨き、自分の言葉で自分の発想を表現する力を身に付ける。HSK中国語検定を視野に語彙と基本文型を増やし、聴解力を高める。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～3		学習法の紹介・HSK中国語検定の仕組みを紹介する								① 発音のイントネーションがわかる ② 聴くポイントがわかる ③ 自分の言葉で自分の気持ちを表現 ④ 言葉の抑揚が分かる ⑤ 話す自信が着く ⑥ 間違い易い話し方がわかる ⑦ オリジナル会話文が創れる ⑧ 単語の多様性が理解できる ⑨ 人に教える立場で話せる ⑩ スマホを活かしての独学法がわかる						
	4～6		「感謝」の会話パターン / 相手に共感する相槌用語														
	7～9		相手に共感する相槌用語 / 依頼の表現														
	10～12		依頼の表現 / オリジナル文でロールプレー														
	13～15		相手に提案する表現 / 話し方の訓練														
	16～18		社会的実務会話例 / 話し方の訓練														
	19～22		グループワーク 表現力を高める														
	23～24		前期定期評価														
	25～28		日本の自然について語り合う/ 長文の朗読訓練 (1)														
	29～32		静岡の自然について語り合う/長文の朗読訓練 (2)														
	33～36		日本の食文化について語り合う/長文の朗読訓練(3)														
	37～46		後期定期評価														
成績評価方法		定期試験50%、課題提出20%、小テスト20%、授業参加モチベーション10%															
使用テキスト ／教材		中国語表現ハンドブック 榎本英雄著 同学社															
関連科目		外国語会話Ⅰ															
その他		毎日一句スマートフォンで中国語を書き写す / ※実務経験のある教員が担当															

2025 年度

授業科目名		TOEIC SW II															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		This course is designed to provide an introduction to the various types of career in which English is used. Each unit will focus on the types of phrases and vocabulary used as well as useful information about the specific responsibilities of each line of work.															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		Unit 1: Schedules & Advertisements I								① テストの形式を理解する ② テスト内容を理解する ③ 試験時間を理解する ④ 採点基準を理解する ⑤ 発音の改善 ⑥ イントネーションの改善 ⑦ 流暢さの向上 ⑧ フォーマルなフレーズ						
	5～8		Unit 2: Express an Opinion I														
	9～12		Unit 3: Schedules & Advertisements II														
	13～16		Unit 4: Express an Opinion II														
	17～20		Unit 5: Respond to Questions I														
	21～24		Unit 6: Respond to Questions II														
	25～28		Unit 7: Practice Test 1														
	29～32		Unit 8: Read a Text Aloud I														
	33～36		Unit 9: Describe a Photograph 1														
	37～40		Unit 10: Practice Test 2														
	41～44		Unit 11: Schedules & Advertisements III														
	45～48		Unit 12: Express an Opinion III														
	49～52		Unit 13: Practice Test 3														
	53～56		Unit 14: Practice Test 4														
57～60		Unit 15: Practice Test 5															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each career, will be distributed at the beginning of each class.															
関連科目		TOEIC SW I															
その他		This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		Communicative English II															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 講義		3		通年		必修選択		30		1					
授業目的 到達目標		Students learn about a different country each lesson. They will learn and discuss the history, food, culture, tourist spots, and language of the country. This class is conducted in English.															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2	Iceland & The Philippines								① 外国の歴史的事実を学ぶ ② 外国語で自己紹介ができる ③ 海外の観光スポットを知ることができる ④ 外国の食文化を学ぶ ⑤ 外国についての意見を書くことができる ⑥ 文化的認識を深める							
	3～4	Denmark & Jamaica															
	5～6	New Zealand & Peru															
	7～8	Canada & Italy															
	9～10	Poland & Thailand															
	11～12	Spain & Hawaii															
	13～14	Malaysia & Argentina															
	15～16	Sweden & South Korea															
	17～18	Malta & Hong Kong															
	19～20	France & Australia															
	21～22	Portugal & Germany															
	23～24	Brazil & UK															
	25～26	Holland & Mexico															
27～28	China & New Zealand																
29～30	Norway & India																
成績評価方法		Attendance 25%, Effort & Participation 25%, Written Reports 50%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each country will be distributed at the beginning of the lesson.															
関連科目		Communicative English I															
その他		Students are required to bring their PC to class. This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名	ビジネス英語検定Ⅱ												
学科・コース	国際交流科												
担当教員	杉山和代												
授業形態(主)	授業形態	履修年次			履修学期			必修・選択		総時間数		単位	
講義		3			前期			必修		30		2	
授業目的 到達目標	貿易、経済、金融に関する知識、及び貿易書類の読み方や英文契約書の内容読解を習得する。												
授業手法	・対面	○			・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略							わかる目標・できる目標				
	1～6	以下の書類の内容理解							① 難易度の高い英文が読める ② 貿易書類が読める ③ 英文契約書が読める ④ 市場経済の知識を得る ⑤ 信用状取引について理解できる				
		・信用状											
		・為替手形											
		・船荷証券											
		・原産地証明書											
		・海上保険証券											
		・商業送り状											
	7～12	社内文書（英語）の内容理解											
	13～14	為替リスクの回避											
	15～16	さまざまな貿易取引											
	17～18	国際マーケティング											
	19～20	法制度や貿易の自由化の歴史と現在											
	21～22	国内総生産や価値について											
	23～24	クレームと仲裁											
	25～30	英文契約書の内容理解											
成績評価方法	期末試験（100％）												
使用テキスト／教材	講師制作のプリント、その他												
関連科目	ビジネス英語検定Ⅰ												
その他													

2025 年度

授業科目名		Drama English															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 演習		3		後期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		Drama English is designed to expose students to a variety of authentic media content. In doing so, students will learn useful phrases and vocabulary, as well as an understanding of foreign culture, current events, and global issues.															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔		○		・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Unit 1: American Situation Comedy I								① ネイティブの英語に触れる ② スラングの知識 ③ 語彙の増加 ④ 聴解力の向上 ⑤ 発音の改善 ⑥ コメディの理解 ⑦ 社会的トピックの理解 ⑧ メディアトレンドの理解						
	3～4		Unit 2: American Situation Comedy Ireams														
	5～6		Unit 3: American Situation Comedy III														
	7～8		Unit 4: American Situation Comedy IV														
	9～10		Unit 5: Documentary I														
	11～12		Unit 6: Documentary II														
	13～14		Unit 7: Documentary III														
	15～16		Unit 8: Movie Scene I														
	17～18		Unit 9: Movie Scene II														
	19～20		Unit 10: Celebrity Interviews I														
	21～22		Unit 11: Celebrity Interviews II														
	23～24		Unit 12: TV Scene 1														
	25～26		Unit 13: Speeches I														
	27～28		Unit 14: Youtube Skits I														
29～30		Unit 15: Music Videos I															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Class materials will be distributed at the start of each class.															
関連科目																	
その他		This class is conducted in English. You may require your PC sometimes. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		比較文化研究Ⅱ												
学科・コース		国際交流科												
担当教員		関根 由美子												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
演習		・講義		3		通年		必修		30		1		
授業目的 到達目標		異文化理解と異文化コミュニケーションの座学とグループワークや調査、プレゼン発表を通して、 プレゼン発表能力を高めると同時に、様々な人々と協調し、異文化に対し順応出来る力を身に付ける												
授業手法		・対面		○	・遠隔			・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク	
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ	○
	プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他	
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標				
	1～2	授業説明・異文化理解への態度（ケーススタディ）								① 日本の常識にとらわれない素地を作る ② 世界の文化・習慣・マナーなどを知る ③ 誤解されやすい文化をロールプレイングを通して体験し理解を深める ④ 海外との違いを知る ⑤ 世界の褒め方・叱り方・謝り方を知りプレゼン発表出来る ⑥ 外国籍の方から直接その国の文化・風習などを聴講し、理解を深める ⑦ コンテキスト・異文化コミュニケーション・パラ言語を理解する ⑧ 世界の非言語コミュニケーションを知る ⑨ 世界の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについてプレゼン発表が出来る				
	3～8	世界の文化・習慣・マナー・食文化のプレゼン												
	9～10	見える文化と見えない文化（見えない文化ロープレ&疑似体験）												
	11	コンテキスト・パラ言語												
	12	異文化コミュニケーション・自己開示												
	13～14	言語コミュニケーション（世界のほめ方・プレゼン作成）												
	15～16	言語コミュニケーション（世界の叱り方・プレゼン作成）												
	17～18	言語コミュニケーション（世界の謝り方・プレゼン作成）												
	19～20	非言語コミュニケーション（アイコンタクト・プレゼン作成）												
	21～22	出前教室①												
	23～24	非言語コミュニケーション（ジェスチャー・プレゼン作成）												
	25～26	出前教室②												
	27～28	非言語コミュニケーション（時間の感覚・プレゼン作成）												
	29～30	世界の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについてプレゼン発表												
成績評価方法		プレゼン発表（40%）・試験（30%） 小テスト・提出物（20%）授業態度・出欠席（10%）												
使用テキスト／教材		異文化コミュニケーション（三修社）・講師作成プリント												
関連科目		比較文化研究Ⅰ												
その他		各自毎時間PCを持参する												

2025 年度

授業科目名		Vocational English II															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		前期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		This course is designed to provide an introduction to the various types of career in which English is used. Each unit will focus on the types of phrases and vocabulary used as well as useful information about the specific responsibilities of each line of work.															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Self-Introduction in English								10項目程度						
	3～4		Self-Introduction in English II								① 英語で自己紹介ができる						
	5～6		Interview Questions about Self								② 面接での質問を理解する能力						
	7～8		Interview Questions about locality								③ 面接の質問に答える能力						
	9～10		Interview Questions about Education I								④ 英文履歴書の作成能力						
	11～12		Interview Questions about Education II								⑤ 英文カバーレターを書く能力						
	13～14		Interview Questions about Work I														
	15～16		Interview Questions about Work II														
	17～18		Interview Questions about Service														
	19～20		Interview Questions about Scenarios														
	21～22		Writing an English language resume I														
	23～24		Writing an English language cover letter														
	25～26		Review Lesson 1														
	27～28		Review Lesson 2 2														
29～30		Review Lesson 3															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each career, will be distributed at the beginning of each class.															
関連科目		Vocational English I															
その他		This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		I C T プレゼンテーション															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		杉山和代・山梨千恵子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・ 講義		3		後期		必修		30		1					
授業目的 到達目標		ICTツールを利用して必要な情報収集・分析ができる力を身に付け、それらをもとにプレゼンテーションを構成し効果的に発表できる力を磨く。															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1-2		プレゼンテーションの基礎								① プレゼンテーションを作成できる ② トピックに対する情報収集・評価ができる ③ プレゼンテーションを行うことができる ④ 効果的なプレゼンテーションを作成できる ⑤ トピックに対する情報収集・評価・分析ができ、論じることができる ⑥ 効果的なプレゼンテーションを行うことができる						
	3-4		トピックへのイントロダクション														
	5-12		リサーチ・資料作成・分析、パワーポイント作成														
	13-16		プレゼンテーション①														
	17-18		①のフィードバックとプレゼンテーション応用														
	19-26		リサーチ・資料作成・分析、パワーポイント作成														
	27-30		プレゼンテーション②														
成績評価方法		プレゼンテーション（60％）、トピックに対する理解（20％）、出席率・授業態度（20％）															
使用テキスト／教材		必要な資料は回ごとに講師が配布															
関連科目																	
その他		毎回PCを持参してください。															

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

シラバス（授業概要）	2025 年度
------------	---------

授業科目名		ゲストサービスⅡ																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		大石 麻美																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実習		・講義		3		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		人を感動させるモチベーションはどこから来るのか動機付けや背景を事実をもとに探り、より深い理解に繋がっていきます。ケーススタディを軸にし、総合的なテーマパークの理解を目指します。型に捉われない豊かな発想力を育むことを目的とし、ロールプレイングも行います。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○		
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		授業説明・一年次の復習								① キャラクターの持つ意味・効果を理解し考案できる ② 季節イベントの持つ意味・効果を理解し考案できる ③ アトラクションの持つ役割・ストーリーを理解し考案できる ④ ゲストの一日に起こるイベントを理解し提案できる ⑤ ゲストに合わせた一日をプランニングできる ⑥ 幅広い語彙力・表現力を提案に反映させることができる ⑦ 自分だけのおもてなしを理解し、体現できる							
	5～8		キャラクターの役割とは															
	9～12		オリジナルキャラクターを考える・プレゼンテーション発表															
	13～16		季節イベントの役割とは															
	17～24		オリジナルイベントを考える・プレゼンテーション発表															
	25～28		アトラクションの役割とは															
	29～30		前期試験															
	31～34		オリジナルアトラクションを考える・プレゼンテーション発表															
	35～38		食育とは何か															
	39～42		テーマパークにおける食育															
	43～46		テーマパークの一日をプランニング															
	47～50		冬季研修準備															
	51～58		冬季研修															
59～60		総括																
成績評価方法		出欠席（30％）授業態度（20％）提出課題（30％）定期試験結果（20％）																
使用テキスト／教材		・オリジナルテキスト ・「あなたに幸せの魔法をかけるディズニーランドの言葉」																
関連科目		ゲストサービスⅠ																
その他		・各自毎時間PCを持参する事。※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		表現技法応用																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		太田 玲子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
演習		・講義		3		前期		必修		30		1						
授業目的 到達目標		昨年の学びを強化させると共にホスピタリティーに伴った伝える声と話し方を徹底的に磨きま す。プロの現場を想定した実習を行い音声表現技術向上を目指します。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティ ブラー ニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ				
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		発声練習上級編 オリエンテーション 課題探し								① 自分の声を生かした伝え方ができる							
	3～8		基本発声練習 原稿読み 1 中文								② 正しいプロの発声法が身につく							
	9～14		基本発声練習 原稿読み 2 中文								③ 言葉に感情を乗せて表現する事ができる							
	15～20		基本発声練習 原稿読み 3 長文								④ アナウンステクニックが身につく							
	21～26		基本発声練習 原稿読み 3 長文								⑤ 人前で話す事がこわくなくなる							
	27～30		本試験（自作スピーチ） 短文 総まとめ								⑥ 文章を瞬時にわかりやすく伝える事ができ る							
											⑦ TP01に応じた伝え方、話し方ができる							
											⑧スピーチ、プレゼンスキルが上がる							
											⑨オンラインでの伝え方が上達する							
			※原稿読み								⑩幅広い表現力を磨く事ができる							
			アトラクション 1, 2, 3															
			ニュース、朗読															
			映像ナレーションなど															
成績評価方法		本試験（５０％） 出席（２０％） 日頃の取り組み（３０％）																
使用テキスト ／教材		配布プリント																
関連科目		表現技法基礎																
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である																

2025 年度

授業科目名		コンシェルジュⅡ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		諏訪 好枝															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習		・講義		3		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		1年生で学んだ基本7を軸に、様々なケースについて各自の意見・考えをディスカッション形式で話し合い発表していく。限られた経験値を想像・想定により解決するスキルを育むことを目標とする。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4	1年次の復習								①社会人としての電話応対を学ぶ ②経験していないことに遭遇した場合 において臨機応変な対応が可能な 思考力・判断力・実行力を養う ③どの分野・業態においても通用する 社会人スキルを身につける							
	4～9	電話応対・ロールプレイング															
	10～11	ケーススタディとは															
	12～28	ケーススタディ															
	29～30	前期試験															
	31～54	ケーススタディ															
	55～58	総まとめ															
	59～60	後期試験（発表会）															
成績評価方法	出欠席（30％） 授業態度・発言（60％） 提出課題（5％） 試験結果（5％）																
使用テキスト ／教材	・オリジナルテキスト ・「本物の接客」 ・講師作成レジュメ																
関連科目	コンシェルジュⅠ																
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である																

2025 年度

授業科目名		ホスピタリティマインド演習															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		広瀬 通夫															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		3		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		1年次の応用として、演習形式の講義を通じ接客業界の最前線で求められる、販売分野に特化したプロフェッショナルマインドの育成と実現を目標とします。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		流通業の役割と商品の分類								① お客様の立場に立った売場づくりができる ② お客様の立場に立った接客ができる ③ お客様のニーズを的確につかめる ④ 小売業に関する専門知識が身に付く ⑤ 売場や店舗を管理する能力が身に付く ⑥ 小売店に対し、品揃えのアドバイスや新しいサービスの提案ができる ⑦ 進物用のラッピングやリボンかけのスキルがマスターできる ⑧ 職場での自分の役割が理解できる						
	3～4		店舗販売と無店舗販売														
	5～6		マーチャンダイジング														
	7～10		商品管理の基本・価格設定の基本														
	11～12		理解度チェック試験														
	13～14		ストアオペレーション・包装技術の基本														
	15～18		マーケティングの基本														
	19～20		消費者行動と市場調査														
	21～22		小売業に係る法令・組織のマネジメント														
	23～24		小売業の計数管理・店舗管理の基本														
	25～28		マーケティング計画の立て方・包装技術の習得														
	29～30		理解度チェック試験														
成績評価方法		理解度チェックテスト（５０％）・出席率（２５％）・授業態度（２５％）															
使用テキスト／教材		３級対応販売士ハンドブック上巻・下巻															
関連科目		ホスピタリティマインド概論															
その他		＊実務経験のある教員が担当する科目である															

2025 年度

授業科目名		華道																
学科・コース		国際交流科																
担当教員		鈴木 智美																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
実技				3		通年		必修		30		1						
授業目的 到達目標		華道とフラワーアレンジメントの基礎を学び、コミュニケーションツールの一つとして、相手を大切に思う姿勢につなげていきます。様々な角度から新たな工夫を発見し、豊かな視点を持つことで、言葉に表せないメッセージや意図を読み取る力が生まれるよう目指しています。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～2		・シラバスについて ・年中行事とお花の関係性								① 花、草木の知識が増える							
	3～4		・花の扱い方、一輪挿しに活ける								② 観察力が深まる							
	5～6		・花束からの流れ（活ける、リボン、ラッピング）								③ 決断力(花を切ることから学ぶ)							
	7～8		・季節の生け花 （水盤と剣山）								④ 集中力(花を生けることで深まる)							
	9～10		・季節の生け花（水盤と剣山）								⑤ インスピレーションが湧く							
	11～12		・季節の生け花（水盤と剣山）								⑥ 多様性と価値観の尊重							
	13～14		・フラワーアレンジメント基礎 1								⑦ 仕上がりイメージした想像力							
	15～16		・フラワーアレンジメント基礎 2								⑧ 感性が豊かになる							
	17～20		・サステナブルデザイン（資源を活かす）								⑨ 花でもてなす心を学ぶ							
	21～24		・間伐材を使ったクリスマスリース作り								⑩ 作品を通じて自分を見つめる							
	25～26		・お正月のしめ縄飾り															
	27～30		・季節を感じる空間づくり															
成績評価方法		・授業への出席率、作品の完成（ 70% ） ・ 積極性、提出ファイル（ 30% ） （ 取り組む姿勢、情熱、失敗を恐れないチャレンジ ）																
使用テキスト ／教材		配布資料																
関連科目		茶道・着付け																
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		異文化接遇														
学科・コース		国際交流科														
担当教員		関根 由美子														
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位				
演習		・講義		3		通年		必修		30		1				
授業目的 到達目標		異文化理解と異文化コミュニケーションの座学とグループワークや調査、プレゼン発表を通して、プレゼン発表能力を高めると同時に、様々な人々と協調し、異文化に対し順応出来る力を身に付ける。														
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔			・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2	授業説明・異文化理解への態度（ケーススタディ）								① 日本の常識にとらわれない素地を作る ② 世界の文化・習慣・マナーなどを知る ③ 誤解されやすい文化をロールプレイングを通して体験し理解を深める ④ 海外との違いを知る ⑤ 世界の褒め方・叱り方・謝り方を知り発表出来る ⑥ 外国籍の方から直接その国の文化・風習などを聴講し、理解を深める ⑦ コンテキスト・異文化コミュニケーション・パラ言語を理解する ⑧ 世界の非言語コミュニケーションを知る ⑨ 世界の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについてプレゼン発表が出来る						
	3～8	世界の文化・習慣・マナー・食文化のプレゼン														
	9～10	見える文化と見えない文化（見えない文化ロープレ&疑似体験）														
	11	コンテキスト・パラ言語														
	12	異文化コミュニケーション・自己開示														
	13～14	言語コミュニケーション（世界のほめ方・プレゼン作成）														
	15～16	言語コミュニケーション（世界の叱り方・プレゼン作成）														
	17～18	言語コミュニケーション（世界の謝り方・プレゼン作成）														
	19～20	非言語コミュニケーション（アイコンタクト・プレゼン作成）														
	21～22	出前教室①														
	23～24	非言語コミュニケーション（ジェスチャー・プレゼン作成）														
	25～26	出前教室②														
	27～28	非言語コミュニケーション（時間の感覚・プレゼン作成）														
	29～30	世界の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについてプレゼン発表														
成績評価方法		プレゼン発表（40％）・試験（30％） 小テスト・提出物（20％）授業態度・出欠席（10％）														
使用テキスト／教材		異文化コミュニケーション（三修社）・講師作成プリント														
関連科目		異文化理解														
その他		各自毎時間PCを持参する														

2025 年度

授業科目名		インフォメーションコーディネート													
学科・コース		国際交流科													
担当教員		大石 麻美													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
実技		・講義		3		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標		接客サービスにおいて、お客様が求める情報を迅速且つ的確に提供するために、どのような準備をすれば良いか、また情報の有効な活用手法を学び、個別最適型提案力の確立を目標とします。													
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔			・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク		○
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		
	プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～2	授業説明・情報収集～提案の重要性とは								① 適切なツールを使って情報収集ができる ② 複数の情報を組み合わせ提案できる ③ お客様のニーズとウソツを理解できる ④ AIを活用することができる ⑤ 小売業における商品知識を習得できる ⑥ 小売業での一般的な接客を理解できる ⑦ 小売業の現場におけるおもてなしを理解できる					
	3～6	情報の収集法と整理について													
	7～8	情報を活用したおもてなしとは													
	9～10	AIの活用													
	11～12	フィールドワーク①													
	13～14	ご提案のケーススタディ													
	15～16	小売業における商品知識													
	17～18	ご提案のケーススタディ													
	19～20	フィールドワーク②													
	21～22	おもてなしのアフターフォロー													
	23～24	オリジナルリーフレットの作成													
	25～28	リーフレットを使用したご案内													
	29～30	まとめ													
成績評価方法		出欠席（25％）授業態度（25％）成果物（50％）													
使用テキスト／教材		講師作成プリント													
関連科目		プレゼンテーション													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		観光接遇地理																		
学科・コース		国際交流科																		
担当教員		大石 麻美																		
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位								
講義				3		後期		必修		30		2								
授業目的 到達目標		・観光系の学習の一環として、日本における世界遺産についての基礎知識を学習し特徴を理解する。																		
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド						
アクティブ ラーニング	事前学習型授業						反転授業						調査授業				フィールドワーク		○	
	双方向アンケート						ペアワーク						グループワーク		○		ロールプレイ			
	プレゼンテーション						PBL						模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標									
	1～4		世界遺産とは（基礎知識）								① 世界遺産の始まりが理解できる ② 世界遺産の登録基準がわかる ③ 日本の世界遺産登録の始まりがわかる ④ 日本の世界遺産がどの県にあるかわかる ⑤ 日本の世界遺産の特徴がわかる ⑥ 世界の有名な世界遺産がわかる									
	5～8		北海道、東北、関東北部の世界遺産																	
	9～12		中部地域の世界遺産																	
	13～16		奈良、京都の世界遺産																	
	17～20		近畿、中国地方の世界遺産																	
	21～24		九州、沖縄地方の世界遺産																	
	25～28		世界の主な世界遺産																	
	29～30		まとめ																	
成績評価方法		学期末試験（60％）、小テスト（30％）、授業受講出席率（10％）																		
使用テキスト／教材		・世界遺産検定4級公式テキスト ・サブノート・配布プリント																		
関連科目		異文化理解																		
その他																				